

ドル高基調は崩れず、ユーロは波乱含み

ドル円相場は6月上旬に125円台に達した後、①黒田日銀総裁発言が円安けん制と捉えられたこと、②6月の米FOMCの内容がややハト派的で利上げペースも緩やかになると示唆されたことから、円高方向に揺り戻し、足元では122円台後半まで戻している。

結局、米FOMCでは特定の利上げ時期は示唆されず、経済情勢次第との姿勢が強調された。米経済のベースにある雇用・所得は堅調であることから、今後は景気の回復基調が強まるだろう。徐々に利上げ観測が高まるとみられるため、今後3か月の方向性は円安ドル高との見通しを維持する。また、これまでの原油価格上昇が今後LNG価格に反映されることで、本邦貿易赤字が拡大に向かうことも円安圧力になる。ただし、当面125円超の領域では当局によるけん制が警戒されやすく、ドル高の勢いが抑制されるため、大幅な円安ドル高は見込んでいない。

ユーロ円相場は、140円間際で高止まりしている。欧州金利の高止まりに加え、ギリシャ問題緊迫化が複雑な影響を与えている。同問題は直接的にはユーロ売り材料だが、一方でリスク回避に伴うユーロ売りポジションの買戻しを誘発しており、ユーロ安圧力が相殺されている。山場を迎えているギリシャ問題だが、今後の展開と市場の反応には不透明感が強く、ユーロ円は当面上下に振れやすい。その後は、同問題の不透明感緩和に伴って、ECB量的緩和継続を材料とするユーロ売りポジションが再構築されることにより、ユーロ安に向かうと予想。

長期金利は欧州金利の影響を受けて大きく上昇した後に低下、足元は0.4%台前半にある。今後は欧州金利が落ち着くことで、一旦低下に向かうが、次第に利上げ観測に伴う米金利上昇が上昇圧力になる。3ヵ月後は現状比横ばい程度と見ている。



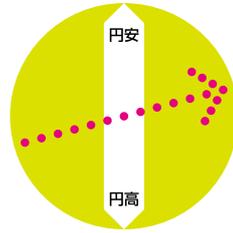
シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

98年日本生命保険相互会社入社、
 01年同融資部門財務審査部配属、
 07年日本経済研究センターへ派遣、
 08年米シンクタンクThe Conference Boardへ派遣、
 09年ニッセイ基礎研究所(現職)。

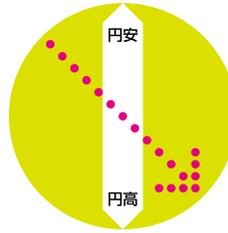


Market Karte

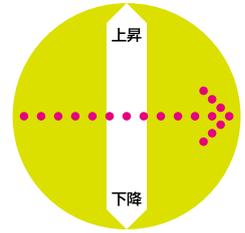
July 2015



ドル円・3ヶ月後の見通し



ユーロ円・3ヶ月後の見通し



長期金利・3ヶ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

